

平成 29 年度 栄区セーフコミュニティ推進協議会

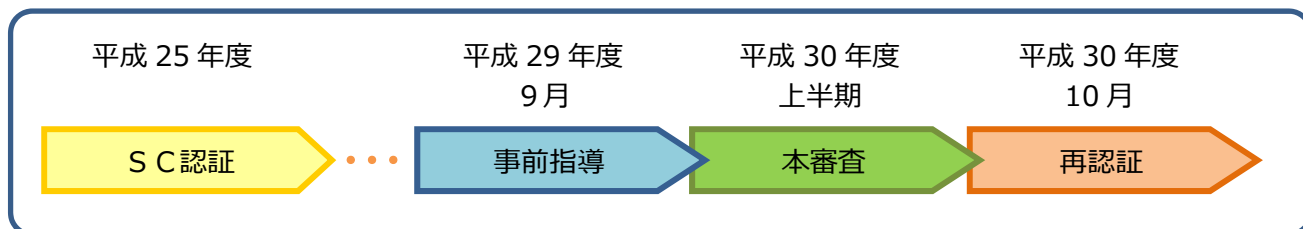
日時:平成 29 年4月 27 日(木) 16 時 30 分から
場所:栄区役所 新館1階 健康相談室 A・B

1	セーフコミュニティ事前指導について	3 頁
2	傷害サーベイランス分科会の体制変更について	5 頁
3	プロモーションについて	7 頁
4	セーフコミュニティアンケートの集計結果について	9 頁
5	平成 28 年度の栄区セーフコミュニティ活動について	
(1)	こども安全対策分科会	19 頁
(2)	スポーツ安全対策分科会	19 頁
(3)	交通安全対策分科会	20 頁
(4)	児童虐待予防対策分科会	20 頁
(5)	高齢者安全対策分科会	21 頁
(6)	災害安全対策分科会	21 頁
(7)	自殺予防対策分科会	22 頁
(8)	防犯対策分科会	22 頁
6	その他	

セーフコミュニティ事前指導について

1 再認証までのスケジュール

平成 30 年度の再認証及び本審査に向けて、平成 29 年 9 月に海外の審査員による事前指導を実施する予定です。その後、平成 30 年度上半期に本審査、10 月に再認証式を予定しています。



2 事前指導実施概要

(1) 日程

- ア 第一候補 平成 29 年 9 月 9 日（土）～平成 29 年 9 月 10 日（日）
 - イ 第二候補 平成 29 年 9 月 2 日（土）～平成 29 年 9 月 3 日（日）
 - ウ 第三候補 平成 29 年 9 月 23 日（土）～平成 29 年 9 月 24 日（日）
- ※日程については現在、日本セーフコミュニティ推進機構と調整中です。

(2) 会場

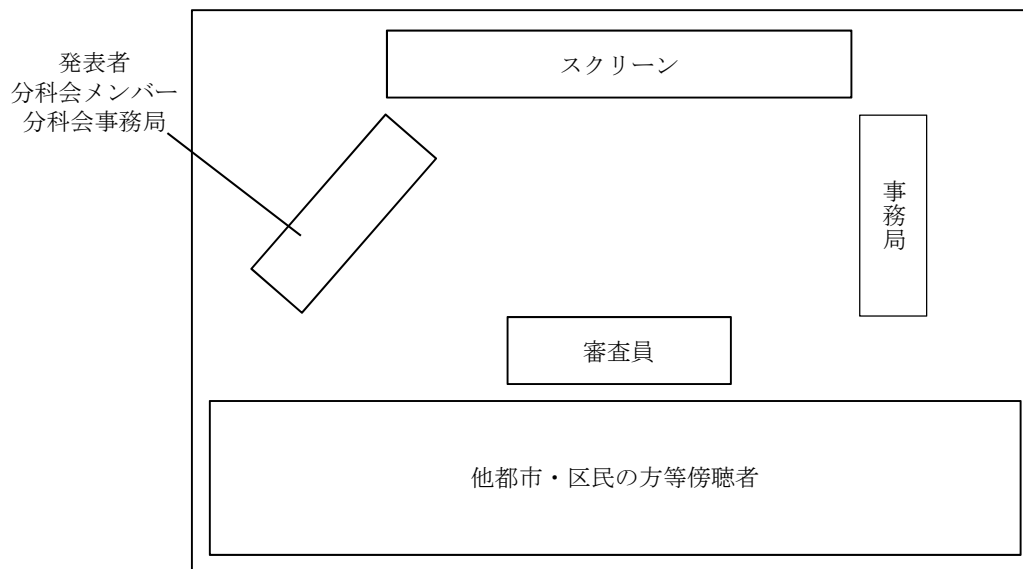
栄区役所（予定）

※会議室 2 つを交互に使用する予定です。

(3) 内容

1 日目	2 日目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 区長挨拶 ・ 栄区概要説明 ・ サーベイランス分科会説明 ・ 各分科会説明（3 分科会） ・ SC 推進自治体交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各分科会説明（5 分科会） ・ 現地視察（2～3 か所） ・ 全体講評

(4) 説明会場レイアウトイメージ



3 各分科会からの説明について

(1) 説明者

プレゼンテーション資料説明者は、可能な限り分科会委員の方をお願いします。説明は日本語で問題ありませんが、スクリーンには英語の資料を写し、通訳は日本セーフコミュニティ推進機構に行っていただきます。説明者以外の分科会委員の方にも、基本的には出席をお願いします。

(2) 説明時間

プレゼンテーション資料の説明 30 分、質疑応答 15 分、移動時間 15 分の計 1 時間を予定しています。

4 リハーサルについて

各分科会のプレゼンテーション資料説明について、1 か月～1 週間前にリハーサルを実施する予定です。詳細については改めてご連絡します。

傷害サーベイランス分科会の体制変更について

今回、セーフコミュニティで取り扱うデータの質の向上を目的として、傷害サーベイランス分科会の体制変更を実施します。

1 栄区傷害サーベイランス分科会の体制案

これまで学識経験者5名で構成されていた傷害サーベイランス分科会を、アドバイザーチーム、実務チームの2つのチームからなる組織とします。これまでの委員をアドバイザーチームとし、新たに実務チームを作ることで、「データの収集・分析」及び「助言・アドバイス」という2つの機能を備えた組織とします。

平成 24 年度～28 年度		29 年度以降	
学識 経験者 (敬称略)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 自殺総合対策センター 地域連携推進室長 反町 吉秀 (座長)	ア ド バ イ ザ リ ー チ ー ム	横浜市立大学大学院医学研究科・医学部地域看護学教室 教授 田高 悦子 (新座長)
	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授 大原 一興		横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授 大原 一興
	横浜市立大学大学院医学群教授 横浜市立大学保健管理センター長 小田原 俊成		横浜市立大学大学院医学群教授 横浜市立大学保健管理センター長 小田原 俊成
	横浜市立大学大学院医学研究科・医学部地域看護学教室 教授 田高 悦子		聖徳大学社会福祉学科 准教授 (横浜国際福祉専門学校 顧問) 豊田 宗裕
	聖徳大学社会福祉学科 准教授 (横浜国際福祉専門学校 顧問) 豊田 宗裕		
		実 務 チ ー ム	横浜市健康福祉局健康安全部
			横浜市医療局がん・疾病対策課
			横浜市消防局救急課
			栄消防署
			栄警察署
			栄区福祉保健センター

2 今後のスケジュール案

今後は、実務チームによる顔合わせを兼ねた打合せを実施した後、各分野別分科会と実務チームによる個別会議を実施します。分科会ごとに必要だと思うデータについて実務チームと議論を行い、より課題に合った対策を実施することで、取組の推進を目指します。

時期	内容
平成 29 年 6 月	実務チームによる第 1 回会議
平成 29 年 7 月～8 月	分科会と実務チームによる個別会議
平成 29 年 9 月	事前指導実施
平成 29 年 10 月～平成 30 年 1 月	分科会と実務チームによる個別会議
平成 30 年 2 月	サーベイランス分科会開催 (第 1 回)
平成 30 年 4 月～8 月	本審査実施
平成 30 年 10 月	再認証式

栄区セーフコミュニティ

プロモーションについて

栄区では、平成30年度のセーフコミュニティ再認証に向けて、平成29年9月に事前指導を実施します。

事前指導を迎えるにあたって、区民の方にもっとセーフコミュニティを身近に感じ、活動の輪に参加していただきたい…！区全体でセーフコミュニティ活動を盛り上げたい…！そのため、以下のとおりプロモーション活動を実施します。

1 セーフコミュニティの活動を知らない層へのアプローチ ～平成28年度までの路線を基本とした露出の強化～

平成28年度に実施したセーフコミュニティアンケートでは、「セーフコミュニティについて全く知らない」「無回答」の人が59.1%と過半数を占めました。また、「セーフコミュニティという言葉を知っている」と回答した人は28.2%でした（表1）。

この「全く知らない」層や、「セーフコミュニティという言葉のみ知っている」層へのアプローチとして、まずは「セーフコミュニティ」という単語を目にいただくこと、そして身近なことがセーフコミュニティに関わっているという認識を持っていただくことを目的として、以下のプロモーションを実施します。

表1 Q.「セーフコミュニティ」について、どの程度知っていますか。

回答	割合 (%)
セーフコミュニティの活動に参加したことがある	3.5
セーフコミュニティの活動について知っている	9.2
セーフコミュニティという言葉を知っている	28.2
セーフコミュニティについて全く知らない・無回答	59.1

(平成28年度 栄区セーフコミュニティアンケート N=631)

- 新規** 1 さかえ区民活動支援協会と連携した区内施設でのPR
- 拡大** 2 駅でのポスター・横断幕・ステッカー等の掲示
- 拡大** 3 チラシ・リーフレット・啓発グッズの配布
- 継続** 4 広報よこはま・タウンニュースによるコラムの掲載及び特集
- 継続** 5 区民まつりでのPR



2 セーフコミュニティの活動にすでに参加している層へのアプローチ ～参加者のモチベーションを上げ、活動の裾野を広げるための露出強化や研修実施～

セーフコミュニティの活動にすでに参加している層へのアプローチとして、よりセーフコミュニティの取組の良さを知っていただくことで、ロコミによる参加者を増やしていくことを目的に、以下のプロモーションを実施します。

- 新規** 1 区役所職員による分科会や活動団体への研修・出前講座
- 継続** 2 広報よこはま・タウンニュースによるコラムの掲載及び特集

3 区役所職員へのアプローチ ～区役所からセーフコミュニティ活動を盛り上げるためのキャラバンや研修実施～

栄区制30周年の区役所全体での盛り上がりを引き継ぎ、区を挙げてセーフコミュニティを盛り上げるために、以下のプロモーションを実施します。

- 新規** 1 庁内ネットワークの掲示板等を活用した情報発信
- 拡大** 2 職員への研修
- 拡大** 3 職場へのPRツールの配布
- 継続** 4 区長キャラバンの実施

ぼくのプロモーショングッズも
充実させる予定だよ！
再認証に向けて、区全体で
セーフコミュニティを盛り上げよう♪



平成 28 年度 セーフコミュニティアンケートの集計結果について

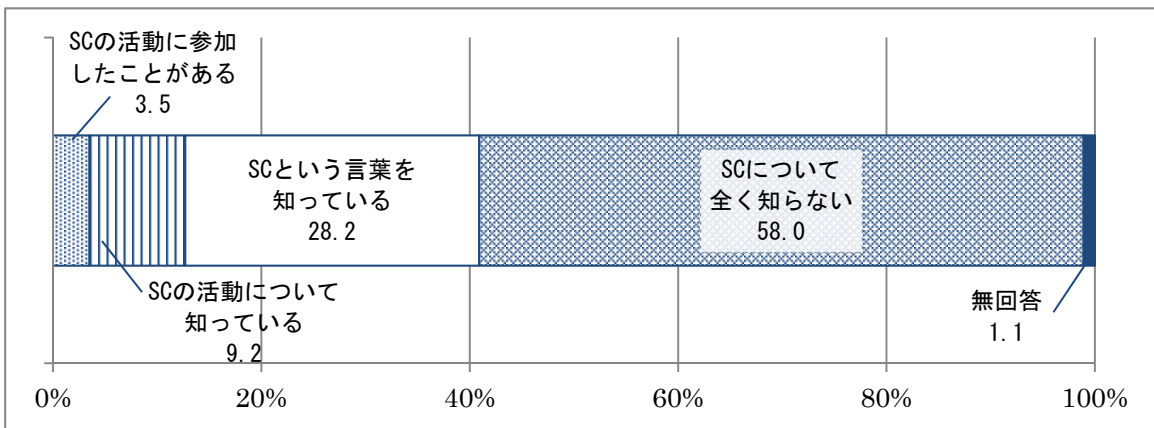
1 調査の対象

- 対象者：住民基本台帳から無作為抽出した栄区在住の 20 歳以上の男女 1,500 人
- 実施時期：平成 28 年 11 月 30 日～12 月 22 日
- 実施方法：郵送配布、郵送回収
- 設問数：15 問
- 回答者数：631 件（回収率 42.1%）

2 結果の概要

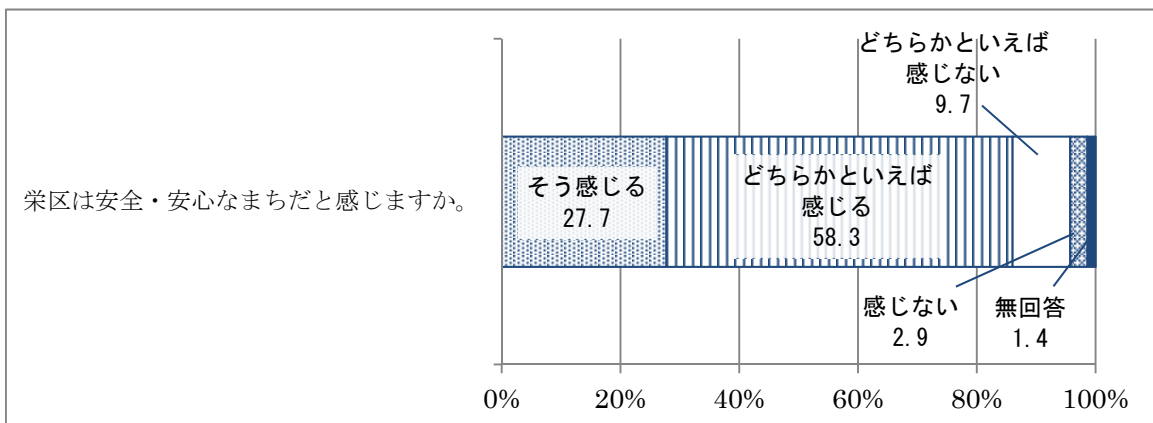
(1) セーフコミュニティの認知度：4 割の区民が何らかの形でセーフコミュニティを認知している

セーフコミュニティについて「活動に参加したことがある」「活動について知っている」「言葉を知っている」を合わせた『認知している』方が 40.9%、『全く知らない』方が 58.0%となっています。



(2) 安全・安心への実感：8 割以上の区民が栄区を安全・安心なまちだと感じている

栄区が安全・安心なまちだと感じるかどうかについて「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『安全・安心なまちだと感じる』方が 86.0%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『安全・安心なまちだと感じない』方が 12.6%となっており、8 割以上の区民が安全・安心なまちだと感じています。



(3) セーフコミュニティの重点取組への関心：交通安全、防犯対策に高い関心が寄せられる一方、スポーツ・余暇時のけが予防、自殺予防対策への関心は比較的低い

セーフコミュニティのそれぞれの重点取組への関心について「交通安全」「防犯対策」に関心がある方が70%前後なのに対し、「スポーツ・余暇時のけが予防」「自殺予防対策」に関心がある方は20%強と大きく隔たりがあります。

	関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	まったく関心がない	無回答
こどもの安全	65.9	20.9	5.5	4.1	1.1	2.4
スポーツ・余暇時のけが予防	23.8	34.4	23.9	11.7	2.7	3.5
交通安全	70.5	20.9	3.6	1.7	0.5	2.7
子育て支援と児童虐待の防止	49.9	33.0	9.4	3.2	1.6	3.0
高齢者の安全	58.5	27.9	9.2	2.1	1.0	1.4
災害への備え	66.9	24.9	4.8	1.0	0.5	2.1
自殺予防対策	24.6	30.6	26.8	11.3	3.5	3.3
防犯対策	69.1	23.1	4.8	0.6	0.3	2.1

(4) けが・事故の危険性：振り込め詐欺に関する危険性について知っている区民が7割前後

けが・事故の危険性について、振り込め詐欺に関する2問は「知っている」方が70%前後と高い割合になりました。その一方、小学生・中学生の30%以上が1年間に「怖い人と出会った」と回答していること、自殺の原因で最も多いのは「病気の悩みによるもの」であることを「知っている」方は10%を切るなど、その割合に大きく隔たりがあります。

	知っている	知らない	無回答
栄区の14歳以下の救急搬送で最も多いのは「0～3歳」	15.7	83.0	1.3
栄区の小中学生・中学生の30%以上が、1年間に「怖い人と出会った」と回答	8.6	90.0	1.4
栄区の運動競技中のけが・事故の原因で最も多いのは「準備運動不足」	32.6	65.8	1.6
栄区の15歳以下の交通事故の中で最も多いのは「自転車による事故」	41.7	56.9	1.4
栄区の65歳以上の交通事故の中で最も多いのは「自動車乗車時の事故」	29.0	69.6	1.4
横浜市の児童虐待について、虐待者は「実母」が最も多い	26.3	71.6	2.1
横浜市の児童虐待の死亡事例は「0歳児」が最も多い	13.3	84.5	2.2
栄区の救急搬送の中で最も占める割合が多い年代は「65歳以上の高齢者」	52.0	46.4	1.6
栄区の65歳以上の救急搬送件数のうち、最も多いのは「転倒・転落」	35.0	63.1	1.9
栄区の65歳以上の不慮の事故のうち、死亡・重篤に占める割合が最も多いのは「溺死・溺水」	12.0	86.2	1.7
栄区の65歳以上の溺死・溺水による救急搬送が最も多いのは「12月～2月の冬場」	27.9	70.5	1.6
横浜市では、震度6弱以上の大地震が発生する確率が「全国で2番目」に高い	20.3	78.3	1.4

栄区で震度7の地震が発生した場合の被害想定は「死者 42 名、負傷者 646 名」と大規模	12.4	86.2	1.4
過去の熊本地震では、7割以上の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている	55.9	42.5	1.6
栄区の自殺者の自殺原因で最も多いのは「病気の悩み」によるもの	8.2	89.9	1.9
栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は、年々増加している	65.0	34.2	0.8
栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める	70.5	28.4	1.1

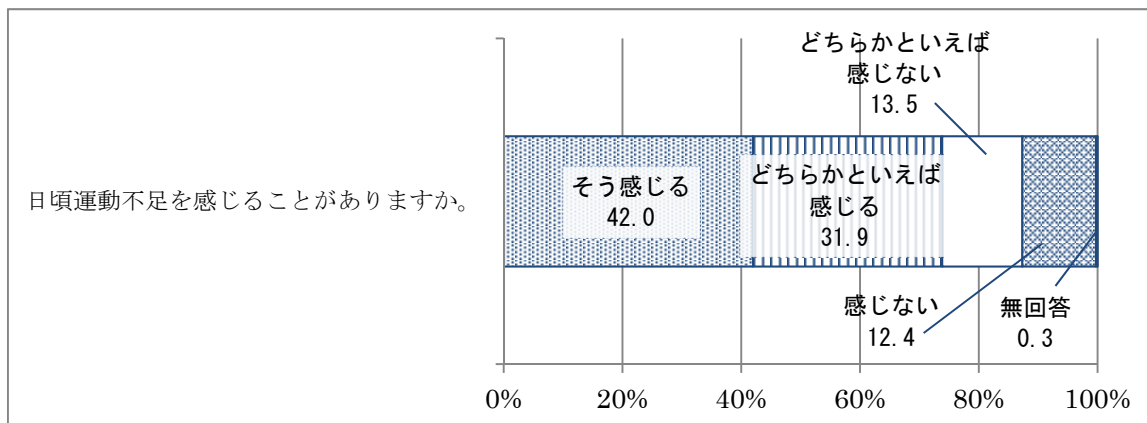
(5) セーフコミュニティの取組：参加したことがある区民は総じて少ない一方、「こどもの登下校の見守り」「こども 110 番の家」は知っている区民が多い

セーフコミュニティの取組について「参加したことがある」方は全体を通して少ない割合となりました。また、「自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の育成講座」については、0%と特に低い割合を示しています。「参加したことがある」方が最も多いのは「震災時の地域防災拠点での訓練」で、3割の方が「参加したことがある」と回答しています。一方、「参加したことはないが知っている」方について最も割合が低いのも、「自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の育成講座」となりました。最も割合が高いのは「こども 110 番の家の登録」となっており、「こどもの登下校の見守り」も7割近くの方が「参加したことはないが知っている」と回答しています。「知らない」方についても最も多いのは「自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の育成講座」となっており、次いで「児童虐待を減らすための啓発活動（オレンジリボン配布等）」となっています。

	参加したことがある	参加したことはないが知っている	知らない	無回答
乳幼児の事故を防ぐための啓発活動（乳幼児健診でのチラシ配布等）	1.3	19.3	77.7	1.7
こどもの登下校の見守り	12.4	68.0	18.5	1.1
こども 110 番の家の登録	7.4	68.5	23.3	0.8
スポーツ時のけが予防講習会	2.5	24.7	71.5	1.3
運動不足解消のためのウォーキング	11.7	51.2	36.0	1.1
こどもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発	4.3	42.2	52.5	1.1
児童虐待を減らすための啓発活動（オレンジリボン配布等）	1.4	16.5	81.1	1.0
高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策	1.9	30.3	66.6	1.3
震災時の地域防災拠点等での訓練	33.3	41.8	24.1	1.0
自殺を予防するための啓発（公共施設でのチラシ配布・講演会等）	1.3	24.6	72.9	1.3
自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の育成講座	0.0	9.7	89.1	1.3
振り込め詐欺の被害者層への啓発（講演会等）	5.4	51.2	42.5	1.0

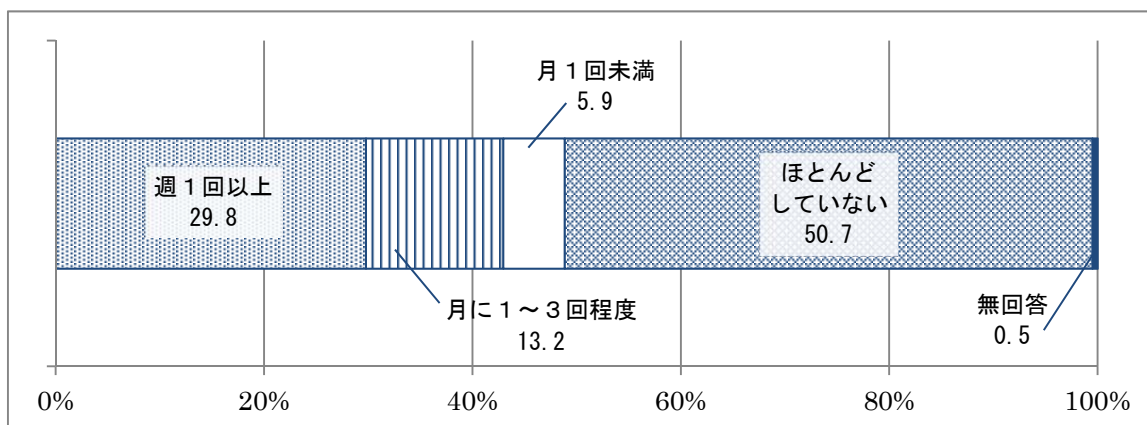
(6) 運動不足の実感：7割以上の区民が日頃運動不足だと感じている

日頃運動不足を感じるかどうかについて「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『運動不足だと感じる』方が73.9%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『運動不足だと感じない』方が25.9%となっており、7割以上の区民が日頃運動不足だと感じています。



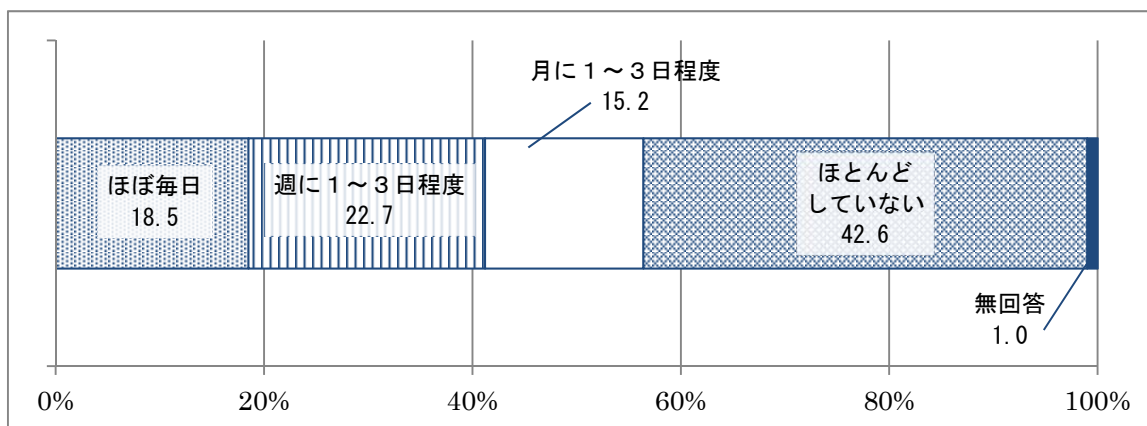
(7) スポーツをする頻度：5割以上の区民がほとんどしていない

スポーツをする頻度については「ほとんどしていない」と回答した方が最も多く、およそ半数を占めました。一方、「週1回以上」と回答した方も3割になっています。



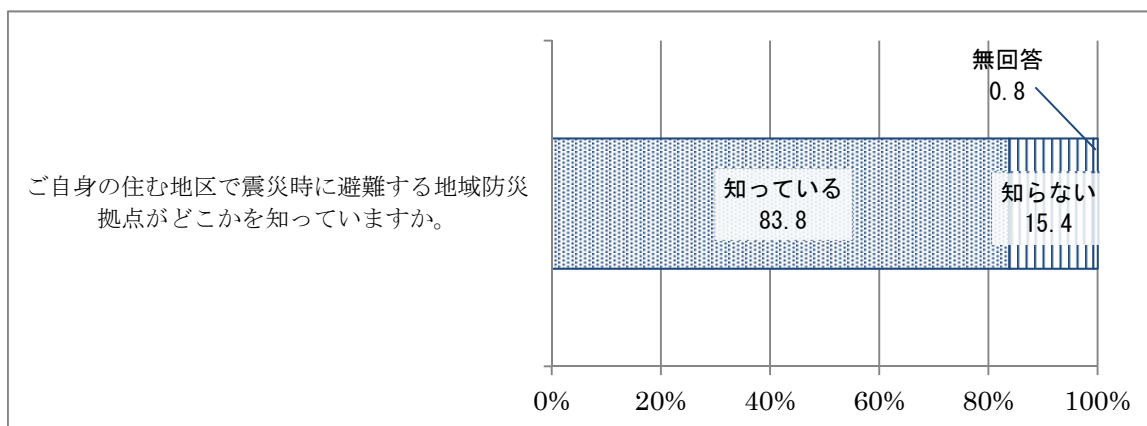
(8) ウォーキングをする頻度：4割の区民が週1～3日程度ウォーキングをしている

日常の外出以外で、健康のためにどのくらいウォーキングをしているかという質問について「ほぼ毎日」「週に1～3日程度」を合わせた『週に1回以上ウォーキングをしている』方が41.2%となりました。一方、「ほとんどしていない」方が42.6%となっており、ウォーキングをしている方とほとんどしていない方の割合が同程度となりました。



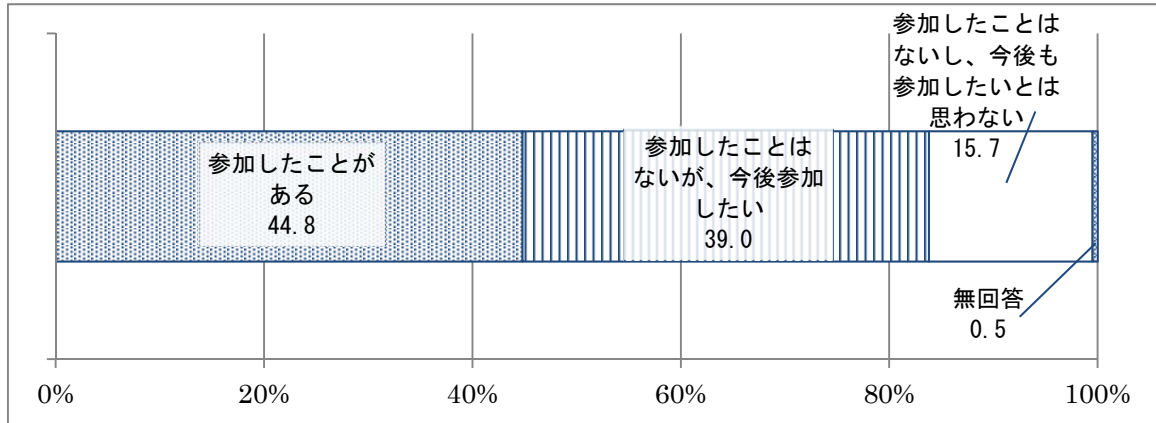
(9) 地域防災拠点の認知度：8割以上の区民が地域防災拠点を知っている

自身の住む地区で震災時に避難する地域防災拠点について「知っている」方が83.8%と「知らない」方を大きく上回る結果となりました。



(10) 地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合：8割以上の区民が地域防災拠点の訓練に参加したことがある、もしくは参加する意思がある

地域防災拠点の訓練に「参加したことがある」「参加したことはないが、今後参加したい」を合わせた割合は83.8%となっており、8割以上の区民が地域防災拠点の訓練に積極的に参加する意思を持っています。



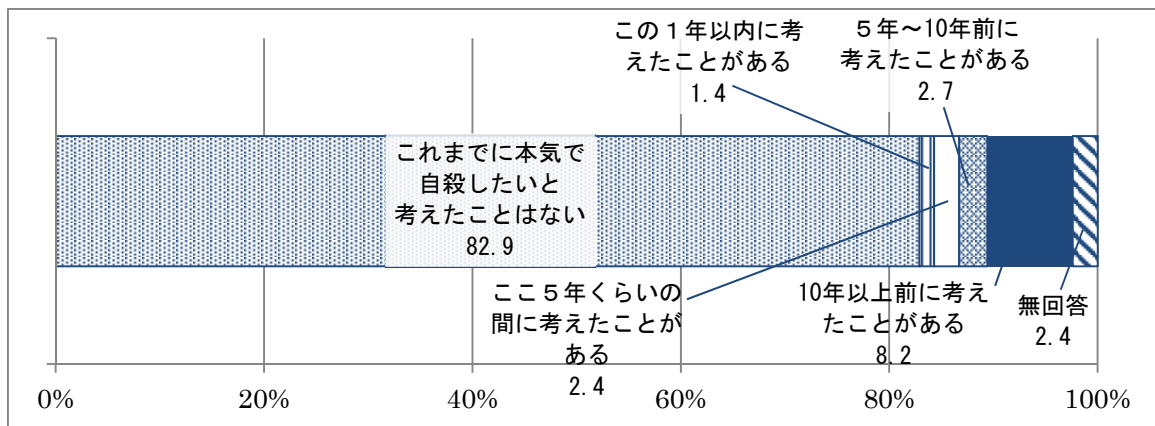
(11) 自殺についての考え方

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらか という そう 思わない	そう 思わない	わから ない	無回答
生死は最終的に本人の判断に任せるべき	17.1	20.1	12.5	34.9	12.5	2.9
自殺せずに生きていけば良いことがある	48.2	32.0	4.0	3.0	10.9	1.9
幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない	0.8	2.2	5.7	82.4	6.5	2.4
責任を取って自殺することは仕方がない	2.1	3.8	8.6	74.3	9.2	2.1
自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない	2.2	9.7	14.6	54.5	16.6	2.4
自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う	45.0	30.1	5.7	5.1	12.0	2.1
多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている	45.6	32.2	2.2	2.4	15.7	1.9
多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある	56.4	27.3	1.9	2.2	10.0	2.2
自殺をしようとする人は何らかのサインを発している	40.7	35.7	2.5	1.4	17.4	2.2
自殺は防ぐことができる	33.3	35.2	6.3	2.9	20.0	2.4
自殺は自分にはあまり関係がない	29.8	18.9	10.5	21.7	16.5	2.7

自殺は本人の弱さからおこる	13.2	20.9	12.4	30.6	20.4	2.5
自殺は本人が選んだことだから仕方がない	4.6	10.3	14.9	49.9	17.9	2.4
自殺を口にする人は、本当に自殺はしない	10.8	16.8	9.2	23.9	36.9	2.4
自殺は恥ずかしいことである	10.3	10.1	12.5	32.6	31.7	2.7

(12) 自殺を考えたことはあるか：8割の区民が自殺を考えたことがない

これまでに「本気で自殺したい」と考えたことはあるかという質問に対しては「考えたことはない」と回答の方が82.9%と最も多い割合を占めました。一方、「この1年以内に考えたことがある」「ここ5年くらいの間に考えたことがある」「5年～10年前に考えたことがある」「10年以上前に考えたことがある」を合わせた割合は14.7%となっており、これまでに自殺を考えたことがある方が1割以上いるという結果になりました。



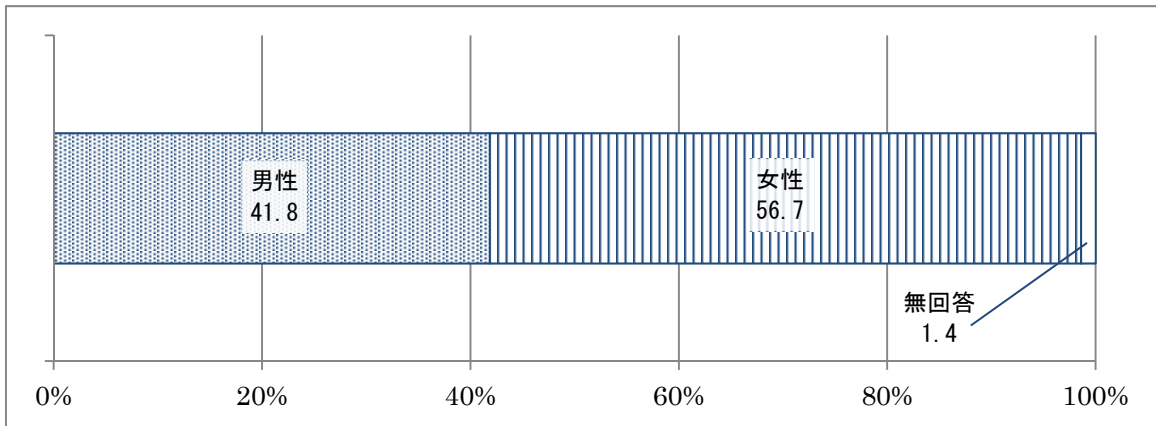
(13) セーフコミュニティについてのご意見やご要望

セーフコミュニティについてのご意見やご要望に関する自由記述欄には、全部で124件(19.7%)の回答がありました。

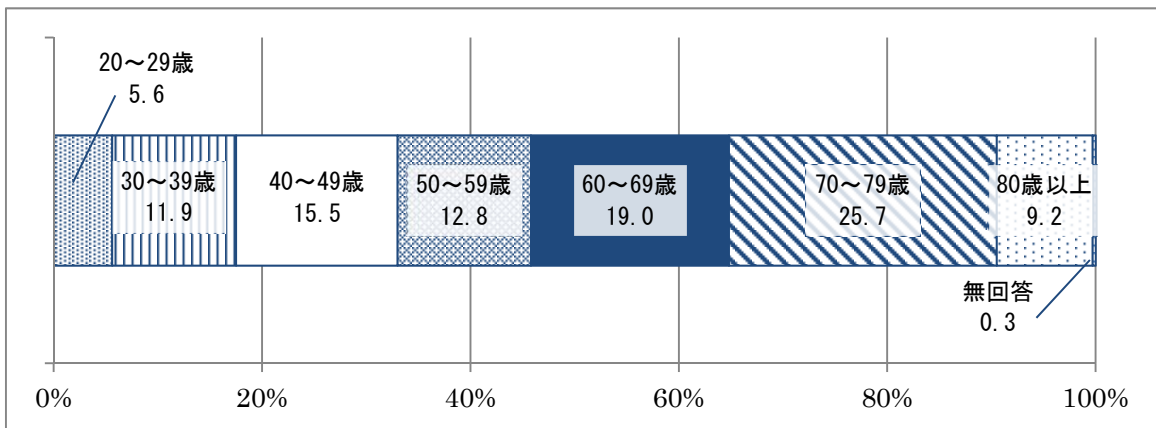
- 【セーフコミュニティについてのご意見やご要望】
- ・何も知らなかったので、もっと積極的にわかりやすくアピールしてほしい
 - ・もっと広報に力を入れてほしい。まだまだ広報活動が足りず、知らない人が多いと思う
 - ・活動状況が身近に感じられない。PR不足だと思う
 - ・WHOの国際認証を取得したということは、それなりの活動があって認められたことだと思うが、どれだけの方が知っているのか疑問。日々の生活の中でもっと身近に活動を取り入れた動きが欲しい
 - ・今回、アンケートをいただいてセーフコミュニティの活動を知った。このようなアンケートを実施することで興味を持つ人も思うので、続けてほしい
 - ・小学生の「登下校の見守り」の方々がセーフコミュニティだとは思わなかった
 - ・自分自身の問題となっていないため、関心が低い
 - ・3年かかって何ができたのか。以前と変わらないのではないかと
 - ・活動に参加してみたいので、参加しやすくしてほしい
 - ・活動に参加してみたい気持ちもあるが、お年寄りの方が多そう。近い年代の方が応募しやすい広告、または実際に向かなくてもできることはないのか
 - ・子どもや高齢者、障害者などいろいろと手助けを必要としている人に対して、具体的にどのようにしたら良いのか迷うことも多い
 - ・子育て世代に対する配慮が全く感じられない。データの提供はあるが、全く実感できない
 - ・行政を含め、皆がやさしくなってきたような気がする。ますます皆の優しさが増えることを望んでいる
 - ・現実的に意味のある施策をお願いします。このアンケートも含めて、無駄はやめてほしい
 - ・具体的に分かりにくい。両親が50代で子が2人20代という家族なので、あまり関係がないように感じていた
 - ・とても良い活動だと思う。今後も是非続けてほしい
 - ・安全・安心を感じながら生活ができています。引き続きセーフコミュニティを推進してほしい
 - ・自殺については、アンケート主催者が期待する回答を誘導する質問になっていて、このアンケートでは正しい結論を出せないと思う

3 回答者の属性

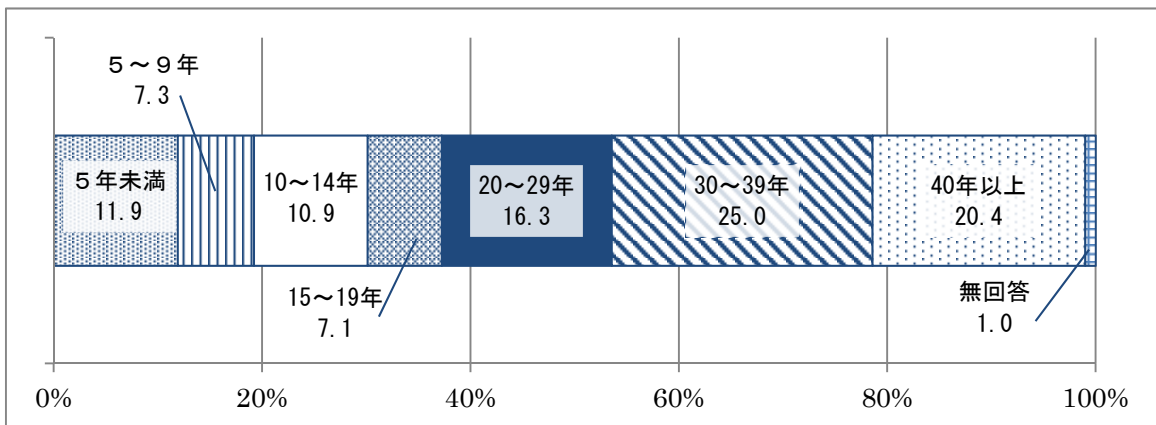
(1) 性別



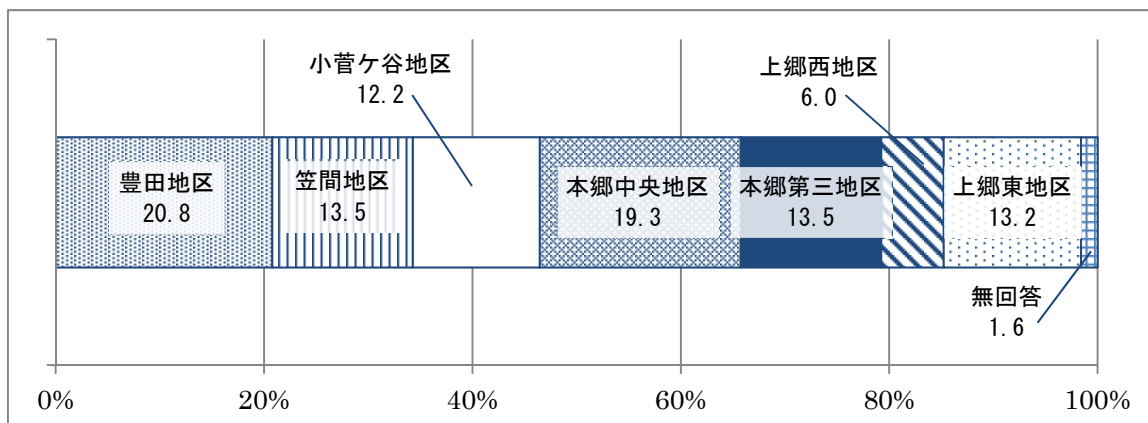
(2) 年齢



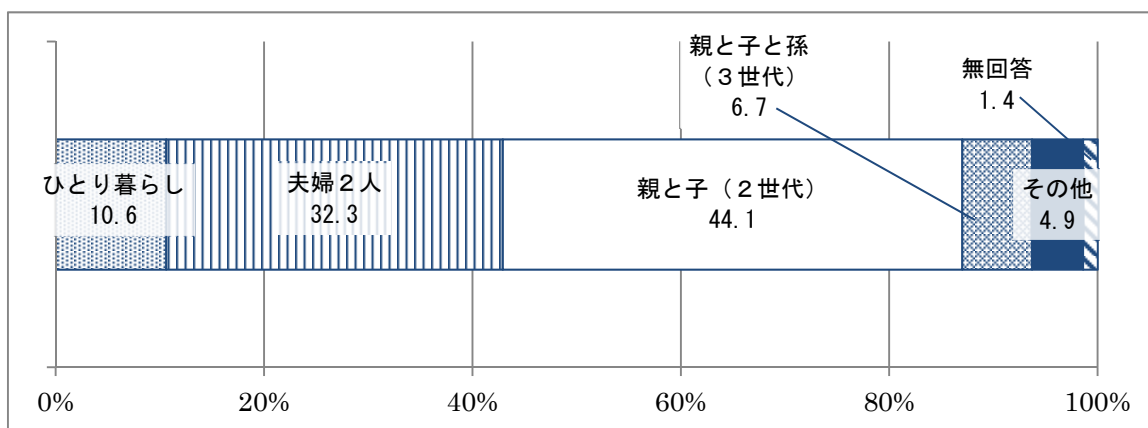
(3) 居住年数



(4) 居住地区



(5) 家族形態



こども安全対策分科会

■取組

	取組内容	目的
1	養育者への啓発	乳幼児期のこどもの救急搬送件数の減少
2	こどもへの注意喚起（KYTの実施）	学齢期の事故件数の減少
3	地域の住民による見守り	安全・安心な地域であると感じるこどもの増加

■平成28年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	9月30日開催	KYT（危険予知トレーニング）講習会の体験、意見交換
第2回	12月6日開催	こども110番の家の活動に関する説明、意見交換

■平成28年度の分科会による主な活動

<p>（分科会全般）</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員が関わっている取組の共有（KYT、こども110番の家） <p>（養育者への啓発）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育施設、子育てサロン・ひろば、地域子育て支援拠点、こんにちは赤ちゃん訪問での事故予防クリアファイル、リーフレットの配布 地域育児教室での保健師によるワンポイントアドバイス 乳幼児健診での事故予防チェックリストの配布 <p>→分科会委員も養育者の集まる場などで配布しました。</p> <p>（子どもへの注意喚起）</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども会イベントにおけるKYTの実施 公立保育園における運動指導 <p>（子どもの見守り）</p> <ul style="list-style-type: none"> こども110番の家 登下校の見守り <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> 少年補導員によるサイバー教室の開催 事故予防に関する養育者向けアンケートの実施 安全安心な地域づくりに関わる学校（児童生徒向け）アンケートの実施
--

スポーツ安全対策分科会

■取組

	取組内容	目的
1	予防講習会の開催	スポーツ時の事故・けがの減少
2	ウォーキングの推進	スポーツ時の事故・けがの減少

■平成28年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	6月20日開催	平成28年度活動計画について、分科会研修会の内容検討について
第2回	10月20日開催	平成28年度上半期事業報告および下半期計画について
第3回	2月23日開催	アンケート結果について、分科会名称の変更について

■平成28年度の分科会による主な活動

<ul style="list-style-type: none"> 分科会研修会としてウォーキング講座を実施しました。 実施日：平成28年10月2日（日） 参加者数：73名（一般含む） 各種スポーツイベントにて準備運動の実施喚起を行いました。
--

交通安全対策分科会

■取組

	取組内容	目的
1	自転車ヘルメット着用啓発	自転車事故によるこどもの死傷者数の減少
2	スクールゾーン対策	登下校中のこどもの交通事故の減少
3	高齢者交通安全教室	自動車事故による高齢者の負傷者数の減少

■平成28年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	4月21日開催	交通安全啓発キャンペーンの実施報告及び実施計画、平成27年度スクールゾーン対策協議会の対応状況、高齢者の交通事故対策
第2回	9月7日開催	交通安全啓発キャンペーンの実施報告及び実施計画、平成28年度スクールゾーン対策協議会の対応状況、サーベイランス分科会報告、高齢者の交通事故対策
第3回	11月15日開催	交通安全啓発キャンペーンの実施報告及び実施計画、区内の死亡事故発生状況報告、子どもの交通事故防止活動推進、改正道路交通法
第4回	2月2日開催	交通安全啓発キャンペーンの実施報告及び実施計画、区内の死亡事故発生状況報告、平成28年交通事故発生状況、サーベイランス分科会報告

■平成28年度の分科会による主な活動

- 各種交通安全啓発キャンペーンの実施
- 高齢者向け交通安全教室の開催
- ヘルメット着用チラシの配布
- 交通安全マップのデータ更新

児童虐待予防対策分科会

■取組

	取組内容	目的
1	さかえっ子の笑顔ひろげ隊	児童虐待対応件数、要保護児童数の減少
2	栄区虐待防止連絡会	虐待事例の共有・検討数の増加
3	こんにちは赤ちゃん訪問	福祉保健センターへの引継ぎ件数の増加
4	専門家による早期対応	児童虐待対応件数、要保護児童数の減少

■平成28年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	5月26日開催	平成28年度活動計画、啓発用リーフレット改訂作業
第2回	7月21日開催	赤ちゃんふれあい体験計画、子育て中の養育者向けアンケート作成
第3回	9月30日開催	上半期活動振り返り、児童虐待防止月間での広報啓発方法の検討
第4回	11月29日開催	赤ちゃんふれあい体験他区見学報告・共有
第5回	1月24日開催	養育者向けアンケート集計結果の共有
第6回	3月29日開催	平成29年活動計画、分科会活動のPR手法の検討

■平成28年度の分科会による主な活動

地域の子育て関係の行事やイベントに出向き、児童虐待防止のための啓発活動を積極的に行った。また子育て世帯の現状把握のために、養育者向けアンケートを実施した。次世代を担う子どもたちの育成として赤ちゃんふれあい体験を全中学校を対象とし募集を広げ、29年度に向けて先駆的な取り組みを行っている他区への視察や学校授業に組み込めるようモデル校の選定を行った。

高齢者安全対策分科会

■取組

	取組内容	目的
1	元気づくりステーション支援	高齢者の体力測定結果の維持
2	転倒予防に資する取組推進	高齢者の体力測定結果の維持
3	住環境の改善の普及啓発	高齢者の転倒・転落件数の減少
4	ヒートショック予防の普及啓発	高齢者の溺死・溺水による死者数の抑制

■平成28年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	10月12日	転倒・転落予防研修、啓発方法等の検討
第2回	3月15日	サーベイランス分科会からの意見と今年度の取り組み報告

■平成28年度の分科会による主な活動

転倒予防体操の開発と啓発（リーフレット、出前講座、サロンでの取組推進等）
 転倒転落の実態についてのアンケート調査
 ヒートショック対策についての啓発（リーフレット、訪問時の説明、出前講座）

災害安全対策分科会

■取組

	取組内容	目的
1	実践的な防災拠点訓練の実施	地震災害による死傷者数の抑止
2	災害時要援護者支援の取組拡大	地震災害による死傷者数の抑止
3	地域避難所の設置及び訓練実施	地震災害による死傷者数の抑止

■平成28年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	10月25日開催	1 再検証に向けた今後の進め方について、2 大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報発表に伴う対応について、3 栄区水害対策マニュアル策定及び即時避難勧告対象地域の更新について、4 地域防災拠点・地域における訓練実施状況、5 熊本地震被災地派遣報告について、6 栄区防災講演会の開催について、7 栄的防災フェアの開催について
第2回	2月14日開催	1 災害安全対策分科会の取り組み状況について、2 栄防災フェアの開催について、3 栄区防災マップ更新について（ご報

■平成28年度の分科会による主な活動

- ・実践的な防災拠点訓練の実施
各拠点の訓練状況について課題や今後の方向性について協議した。また、一部拠点で行われている実践的な訓練の先進事例を共有した。
- ・災害時要援護者支援の取組拡大
自治会町内会への要援護者名簿提供や、拠点訓練等の場での要援護者を想定した訓練を推進した。
- ・地域避難所の設置及び訓練実施
地域避難所と地域防災拠点の連携について、情報や物品の授受について今後進めていかなければならない事項について確認した。

自殺予防対策分科会

■取組

	取組内容	目的
1	啓発活動の展開	自殺に関する理解度の向上、自殺者数・自殺死亡率の抑制
2	ハートフルサポーター	他機関・他部署から支援機関に繋がった件数の増加
3	ハイリスク者への支援強化	自殺者数、自殺死亡率の抑制

■平成28年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	9月2日開催	27年度取組報告及び28年度の取組・傷害サーベイランス分科会資料案・ハイリスク者支援策検討部会（仮）の立ち上げ
第2回	3月2日開催	H27年の自殺者の状況・区アンケート、市調査結果について・28年度の取組と課題・29年度の取組

■平成28年度の分科会による主な活動

- ①9月、3月の自殺予防強化月間に、キャンペーンの実施。（9月本郷台駅、3月大船駅）
 3月は鎌倉・逗子・葉山のキャンペーンと同時開催。近隣障害事業所の利用者の参加もあり。
- ②自殺ハイリスク者支援策検討部会の立ち上げと開催。（9月、12月）
 「栄区いのちとこころのホットライン」検証、ハイリスク者の定義、自殺未遂者を相談機関につなげる仕組みの検討
- ③ハートフルサポーター育成研修（区職員）、メンタルヘルス専門従事者研修、メンタルヘルス支援ネットワークの実施

防犯対策分科会

■取組

	取組内容	目的
1	振り込め詐欺の被害者層への啓発実施	振り込め詐欺の認知件数及び被害金額の減少

■平成28年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	2月16日開催	サーベイランス分科会報告、各団体における取組の情報共有、平成29年度に向けた取り組み

■平成28年度の分科会による主な活動

- イベントにおける防犯啓発
- 電話機貼付用「振り込め詐欺防止」シールの作成
- 防犯情報の配信

平成 29 年度
セーフコミュニティ推進協議会
各分科会委員名簿

① セーフコミュニティ推進協議会	3 頁
② こども安全対策分科会	4 頁
③ スポーツ安全対策分科会	5 頁
④ 交通安全対策分科会	6 頁
⑤ 児童虐待予防対策分科会	7 頁
⑥ 高齢者安全対策分科会	8 頁
⑦ 災害安全対策分科会	9 頁
⑧ 自殺予防対策分科会	10 頁
⑨ 防犯対策分科会	11 頁
⑩ 傷害サーベイランス分科会	12 頁

■平成29年度 栄区セーフコミュニティ推進協議会 委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	会長	小山内 いづ美	栄区長
2	副会長	磯崎 保和	栄区連合町内会長
3	〃	川名 愛司	栄警察署長
5	〃	佐藤 重義	栄消防署長
6	委員	持田 忠	笠間連合町内会自治会会長
7	〃	田中 健次	小菅ヶ谷連合町内会自治会会長
8	〃	細田 利明	本郷中央連合町内会自治会会長
9	〃	保坂 順弥	本郷第三連合町内会会長
10	〃	新保 孝雄	上郷西連合町会会長
11	〃	吉田 敏生	上郷東連合町会会長
12	〃	日浦 美智江	栄区社会福祉協議会会長
13	〃	佐野 勝彦★	栄区民生委員・児童委員協議会会長
14	〃	江口 一彦	栄区医師会会長
15	〃	細川 治	横浜栄共済病院院長
16	〃	二宮 三嘉★	栄区薬剤師会会長
17	〃	大矢 享	栄歯科医師会会長
18	〃	片岡 喜久江	こども安全対策分科会座長
19	〃	丸山 隆	スポーツ安全対策分科会座長
20	〃	森 克己	交通安全対策分科会座長
21	〃	宮崎 良子	児童虐待予防対策分科会座長
22	〃	竹谷 康生	高齢者安全対策分科会座長
23	〃	磯崎 保和	災害安全対策分科会座長
24	〃	小田原 俊成	自殺予防対策分科会座長
25	〃	保坂 順弥	防犯対策分科会座長
26	〃	田高 悦子★	傷害サーベイランス分科会座長
27	参与	大桑 正貴	栄区議員団
28	〃	輿石 且子	栄区議員団
29	〃	石渡 由紀夫	栄区議員団
30	〃	楠 梨恵子	栄区議員団

■こども安全対策分科会委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	座長	片岡 喜久江	栄区子ども会連絡協議会会長
2		星野 昭子	栄区小学校長会代表（桂台小学校）
3		岡田 由美子	栄区中学校長会代表（小山台中学校）
4		輿石 稔	栄区PTA連絡協議会会長
5		岡 正子	栄区公立保育園長（桂台保育園）
6		森 往子	横浜市幼稚園協会栄支部代表（認定こども園いのやま）
7		本田 桂子	栄区子育て支援団体連絡会代表
8		白水 嘉子	栄区少年補導員連絡会会長
9		藤森 裕子	栄保護司会代表
10		五十嵐 京子	栄区地域子育て支援拠点にこりんく施設長

■スポーツ安全対策分科会委員名簿

※平成29年3月28日現在

No.	役職	氏名	職位
1	座長	丸山 隆	栄区体育協会
2		清水 正美	栄区体育協会
3		白川 正信	栄区体育協会
4		石山 正彦	栄区スポーツ推進委員連絡協議会
5		厚浦 裕	栄区スポーツ推進委員連絡協議会
6		高城 裕之	栄区青少年指導員協議会
7		山上 東平	栄区青少年指導員協議会
8		片岡 久	栄区さわやかスポーツ普及委員会
9		西村 一雄	栄区さわやかスポーツ普及委員会
10		磯川 正教	NPO法人さかえスポーツくらぶ
11		末村 高志	NPO法人さかえスポーツくらぶ
12		堀川 裕美	横浜市体育協会地域スポーツ支援課

※平成29年4月以降、委員変更の可能性あり(全員について可能性あり)。座長は5月中旬に変更

■交通安全対策分科会委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	座長	森 克己	栄交通安全協会副会長
2		山田 正利★	栄交通安全協会常任理事
3		関 登志江	栄交通安全協会事務長
4		山田 龍雄★	栄安全運転管理者会相談役
5		佐々木 克巳★	横浜建設業協会栄区会副会長
6		田中 貞代	栄交通安全母の会連絡会会長
7		西川 紀彦★	栄区シルバーリーダー連絡協議会会長
8		近藤 秀政★	栄警察署交通課長
9		平間 健一★	栄警察署交通総務係長
10		九十九澤 稔★	栄消防署庶務課長
11		長谷川 秀	栄土木事務所副所長
12		三浦 正★	栄土木事務所管理係長

■児童虐待予防対策分科会委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	座長	宮崎 良子	栄区主任児童委員
2		北野 優子	栄区主任児童委員
3		五十嵐 京子	栄区地域子育て支援拠点「にこりんく」
4		古川 真歩	栄区地域子育て支援拠点「にこりんく」
5		岩田 周子★	栄区社会福祉協議会

■高齢者安全対策分科会委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	座長	竹谷 康生	栄区シニアクラブ連合会会長
2		谷 朋子	民生委員代表
3		山本 晃永	栄共済病院（総合相談課）課長
4		江口 一彦	区医師会会長
5		佐野 勝彦★	民生委員・児童委員協議会会長
6		中嶋 優子★	区社会福祉協議会事務局長
7		塚本 忠志★	上郷西地区社会福祉協議会会長
8		田中 伸一	保健活動推進員会会長
9		湯瀬 洋子★	栄区シニアクラブ連合会副会長
10		福田 稔	元気づくりステーション代表
11		関 妙子★	筋トレ自主会代表
12		冨永 秀樹★	中野地域ケアプラザ所長
13		川島 康子★	中野地域ケアプラザ看護師
14		篠原 正治	特別養護老人ホーム上郷苑施設長
15		兼武 美保★	ケアマネージャー（栄ケアネット）代表
16		今野 知大	J S 日本総合住生活（UR管理業務受託）管理主任
17		田崎 勝★	栄警察署係長
18		山崎 大輔★	栄消防署救急担当課長
19		田辺 俊介★	栄スポーツセンター所長
20		佐藤 美苗★	介護老人保健施設リハビリポート横浜課長

■災害安全対策分科会委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	座長	磯崎 保和	栄区連合町内会
2		毛利 勝男	栄区地域防災拠点運営委員会連絡協議会
3		石山 俊雄	栄区地域防災拠点運営委員会連絡協議会
4		加藤 正基	栄消防団
5		小石 榮美	栄区火災予防協会
6		武田 政美	栄区自衛消防隊連絡協議会
7		中嶋 優子★	栄区社会福祉協議会
8		坂本 昌彦	栄区小学校長会
9		岡田 由美子	栄区中学校長会
10		九十九澤 稔★	栄消防署庶務課長

■自殺予防対策分科会 委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	座長	小田原 俊成	横浜市立大学学術院医学群教授 横浜市立大学保健管理センター長
2		牛尾 浩一	横浜市栄区生活支援センター所長
3		臼井 喜代士	栄区商店街連合会会長
4		江口 一彦	栄区医師会会長
5		川島 陽子	横浜栄共済病院安全管理室師長
6		庄司 晃洋★	栄区基幹相談支援センター所長
7		田中 豊★	神奈川県栄警察署生活安全課長
8		田中 伸一	栄区保健活動推進員会会長
9		二宮 三嘉★	栄区薬剤師会会長
10		本田 圭子★	栄区民生委員・児童委員協議会副会長
11		三木 涉★	横浜市豊田地域ケアプラザ所長
12		山崎 大輔★	栄消防署救急担当課長

■防犯対策分科会委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	座長	保坂 順弥	栄区連合町内会副会長・栄防犯協会会長
2		臼井 喜代士	栄区商店街連合会会長
3		岡田 忠男	栄防犯指導員連絡協議会会長
4		越替 紀浩	栄区保護司会会長
5		西川 紀彦★	栄区シニアクラブ連合会会長
6		折田 藍子	栄区消費生活推進員の会区代表
7		田中 豊★	栄警察署生活安全課長

■傷害サーベイランス分科会 委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	座長	田高 悦子	横浜市立大学大学院医学研究科・医学部地域看護学教室教授
2		大原 一興	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授
3		小田原 俊成	横浜市立大学学術院医学群教授 横浜市立大学保健管理センター長
4		豊田 宗裕	聖徳大学社会福祉学科 准教授 (横浜国際福祉専門学校 顧問)